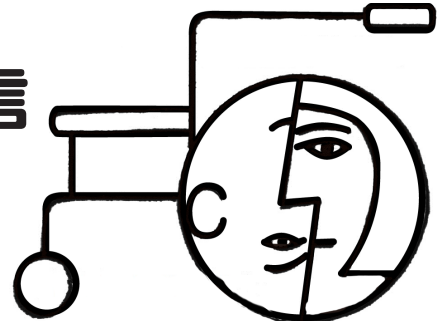


2021年9月2日 NO.125号

障害児・者サークル通信

発行：性教協★障害児・者サークル事務局
〒591-8046 大阪府堺市北区東三国ヶ丘町5-2-10 千住方
E-mail seikyokyo_kansai@yahoo.co.jp
HP <http://shogaiji.seikyokyo.org/>



特集 夏のセミナー 報告

- 性教協40周年まるっとセミナー 基調報告レポート・・・・・・・・・・1
- 岡野八代さん講演レポ「セクシュアリティ・ジェンダー、そして政治」・2
- 「性教育50年～考えてきたこと、伝えたいこと～」・・・・・・・・・・3
- 全障研全国大会 第13分科会「障害のある人の性と生」・・・・・・・・・・4
- 障害児・者性教育セミナー in 堺報告・・・・・・・・・・6
- 性教育の教材を紹介・・・・・・・・・・7
- 第49回東京の性教育実践研究会報告・・・・・・・・・・8
- サークル会報編集委員の紹介・・・・・・・・・・9
- 連載「親ばなれー子ばなれ」ー「自立」と「自立生活運動」を中心に・・・10
- 本の紹介 / お知らせ・・・・・・・・・・12

“人間と性”教育研究協議会 性教協40周年まるっとセミナー

基調報告

＜科学・人権・自立・共生＞の理念は 世界に通じ 未来を照らす！

8月8日の性教協40周年記念企画「全国まるっとセミナー スタートセミナー」は、各会場でのグループ視聴も含めると、総勢260名あまりの参加でした。金子由美子さんのあいさつに続いて、副実行委員長の田代美江さんが、「＜科学・人権・自立・共生の性教育＞と包括的セクシュアリティ教育」という標題で基調報告をされました。今回の基調報告は、包括的セクシュアリティ教育の視点から、これまでの性教協の歩みを検証し、これからの方向性について明らかにすることを目指した内容でした。

性教協に入会して間もない私が一番興味深かったのは、性教協が掲げる＜科学・人権・自立・共生＞という理念の背景についてのお話です。1982年の性教協の「設立趣意書」には、すでに科学・人権・自立・共生についての視点が真ん中に据えられていることがその本文とともに紹介されました。＜科学＞道徳的規範を押し付ける性教育の否定や性への偏見の払拭を目指すことの大切さ。＜人権＞生涯にわたる人権としての性の尊重・性の多様性・プライバシーの尊重を学ぶことの大切さ。＜自立と共生＞自立のために個性や個人の性が認められることや、共生のために多様な生き方や性を認め合わなければならないこと。村瀬先生は、当時発刊された「シリー

ズ本」で、こう述べています。「(性教育の教育内容を考えるときには)科学に立脚した内容であること、性を人権としてすべての人びとに共通する課題として認識すること、そして自立と共生を推し進める方向性をもつことが重要である」この一文に、理念のすべてが！これは、障害児・者サークルでも実践研究において大切にしていることと大きくうなずきました。

後半では、「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」が目指していることが、性教協が掲げてきた理念＜科学・人権・自立・共生＞や、その実践研究の道のりと重なり合うものであることについて、具体的にガイダンスの特徴を挙げ、詳しく説明されました。日本では、政府が科学的な性教育を阻害するという厳しい現実がありますが、性教協40年の歩みは、世界の性教育の到達点に正しく沿ったものであり、今後も自信をもって歩いていけばいいことを示唆していることがよく分かりました。

最後に、田代さんは「子ども・若者たちの権利侵害の状況に敏感に応答していくこと」「自立と共生の意味やその関係について改めて問い直す必要がある」ことを課題として提起されました。(前田 恵美)